

日本衛生学会連携研究会一覧

研究会名称	世話人代表	世話人代表 所属	世話人	活動目標
遺伝子健康行動研究会	竹下 達也	和歌山県立医科大学 医学部 公衆衛生学教室	加藤 貴彦、 川本 俊弘、 羽田 明	1. 遺伝子多型と環境要因とを包括した生活習慣病発症リスク解析の意義を明らかにする 2. 遺伝子情報の健康行動変容への応用に際しての留意点および問題点を探る 3. 行動へ影響を与える要因とそのメカニズムを解明する
エピジェネティクス医学研究会	湯浅 保仁	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 分子腫瘍医学	森本 兼麿、久保田 健夫 牛島 俊和、加藤 忠史 間野 博行	1. 塩基配列そのものには変化は無いが、DNAメチル化などにより遺伝子発現が変化する現象をエピジェネティクスと呼ぶ。エピジェネティクス異常は、従来先天異常の発症過程や癌化過程において研究されているが、これらだけではなく、最近精神神経疾患や心疾患などにおいても報告されるようになってきた。エピジェネティクスは従来にない新しいパラダイムを医学研究にもたらす可能性が高く、まず衛生学会でシンポジウムを開催してエピジェネティクス研究の重要性を紹介したい。 2. 衛生学研究者とエピジェネティクス研究者で交流を深めることにより、共同研究を提案して学会員の中にエピジェネティクス研究者を増やしたい。特に若手研究者の参加を歓迎する。 3. エピジェネティクス医学の高い将来性から、学会を中心とした新たな研究費申請を企画する。
環境リスク研究会	内山 巖雄	京都大学大学院 工学研究科 年環境工学専攻 環境衛生学講座	香山 不二雄、川本 俊弘、 佐藤 洋、遠山 千春、 土田 昭司	1. 化学物質のリスク評価手法の文献収集、 2. 衛生学会会員による健康リスク評価手法の研究 3. 化学物質の環境基準設定のためのガイドラインの策定と提案
感作機構研究会	上田 厚	熊本大学大学院 医学薬学研究部 環境保健医学分野 環境生命科学講座	日下 幸則、大槻 剛巳、吉田 貴彦、 森本 兼麿、相澤 好治、土橋 邦夫 香山 不二雄、松永 佳世子 貫成 文彦、大沢 基保、李 卿	1. 職業・環境アレルギー・免疫毒性の疫学特性の解明 2. 職業・環境アレルギー・免疫毒性の感作機構の解明 3. 職業・環境アレルギー・免疫毒性の起因物質のリスト作成 4. 職業・環境アレルギー・免疫毒性の予防管理に関するネットワークの開発 住民のアレルギー・免疫毒性に対する自己決定力の向上 5. 職業・環境アレルギー・免疫毒性の包括的・系統的予防管理システムの開発 アレルギー・免疫毒性センターの設置
健康経済研究会	今中 雄一	京都大学大学院 医学研究科 医療経済学分野	未確定	1. 地域、職域、その他の集団等の健康とそれに係る経済性についての評価研究を検討する。情報・意見を交換し研究活動を活性化させる。 2. 地域、職域、その他の集団等の健康への介入、即ち保健・医療・介護の効果と経済性を検討する。情報・意見を交換し研究活動を活性化させる。 3. 健康に関する政策・制度の、データや社会技術に基づく設計や評価を検討する。情報・意見を交換しベストプラクティスを学びあう。
室内空気質研究会	相澤 好治	北里大学医学部 衛生公衆衛生	岸 玲子、田中 正敏、森本 兼麿、 吉村 健清、坂部 貢、加藤 貴彦 秋山 一男	1. シックハウス症候群の病因解明 2. シックハウス症候群の概念確立 3. シックハウス症候群の予防・対策法の確立
食品衛生研究会	香山 不二雄	自治医科大学 保健科学講座	小泉 直子、佐藤 洋、吉田 貴彦、 松岡 雅人、森本 兼麿、佐々木 敏、 上原 万里子	1. 食品の安全性確保のために、リスク評価手法の開発を研究会としての目標とし、さらにその方法論がリスク管理にどのように生かすことができるか、研究会で検討を行う。 2. 研究テーマとしては、カドミウム、メチル水銀、残留農薬、食品への抗生剤、防カビ毒、並びに、鳥インフルエンザ、BSE等が健康に及ぼす影響について研究を行う。 3. 会員相互の情報交換と研鑽の場とする。
森林医学研究会	李 卿	日本医科大学 衛生学公衆衛生学	竹下 達也、上田 厚、大槻 剛巳、 本橋 豊、宮崎 良文、香川 隆英 小林 昭雄、茂原 治、平野 秀樹	1. 科学的視点から森林浴の癒し効果を検証する。 2. 総会開催時、シンポジウムを企画して最新の研究成果を発表する。 3. 林野庁及び森林セラピー研究会と連携しながら、森林浴研究を日本で定着させる。
睡眠学研究会	本橋 豊	秋田大学医学部 健康増進医学分野	大井田 隆、内山 真 清水 徹男、宮崎 総一郎	1. 衛生学における睡眠学研究の興隆を図る 2. 他分野の研究者と積極的な交流を図る 3. 睡眠健康学の学術的基盤を強化する
ストレス研究会	吉益 光一	和歌山県立医科大学 医学部 衛生学教室	森本 兼麿、下光 輝一、小林 章雄、 相澤 好治、原谷 隆史、川上 憲人 大平 英樹、尾崎 紀夫、仙波 恵美子、 鳥 悟、永田 頌史	1. 衛生学研究の柱のひとつとしてのストレス研究の水準向上 2. ストレス科学に関する関連諸学会との連携 3. 日本衛生学会会員へのストレス研究に関する講習会や情報提供
生殖次世代影響研究会	岸 玲子	北海道大学大学院 医学研究科 予防医学講座 公衆衛生学分野	那須 民江、村田 勝敬、千葉 百子、 市原 学、上島 通浩、片倉 洋子 大迫 誠一郎、西條 泰明、佐田 文宏、 岩本 晃明、東村 博子、堤 治、 湯浅 資之	1. 生殖次世代影響の基礎的な研究方法、生殖次世代影響に関する疫学的なリスク評価等を目的とした研究会活動を継続する。 2. 関連諸学会（環境ホルモン学会など）と連携し研究会活動を行う。 3. 国際的な学会の専門委員会（ICOHなど）と連携して交流する

日本衛生学会連携研究会一覧

研究会名称	世話人代表	世話人代表 所属	世話人	活動目標
生体応答研究会	小泉 昭夫	京都大学大学院 医学研究科 環境衛生学分野	大前 和幸 日下 幸則 西條 清史	1. 自然環境・社会環境に対するヒトの生体応答について、メカニズムを重視した研究を促進する。 2. 多様な環境・生物要因(環境汚染物質、産業化学物質、加齢)から、応答としての病態(糖尿病、循環器系疾患、ストレス)を機能(ゲノムの多型や転写因子の変動、システム工学)から理解する。 3. 最新の医学生物についての情報の交換を行なう。 4. 衛生学における実験系の基礎理論となる手法などの情報を若手研究者に提供する。
繊維・粒子状物質研究会	大槻 剛巳	川崎医科大学 衛生学	森永 謙二、矢野 栄二、平野 靖史郎、 石原 陽子、森本 泰夫、安達 修一 古山 昭子、高田 礼子、工藤 雄一郎	1. 繊維状物質(代表的にアスベスト)、粒状物質(ナノ粒子など)の生体影響について、基礎医学的検討を行う。 2. 基礎研究の成果が、人々の健康障害を予防軽減するために活用されるべき方向性を検討する(Translational research としての位置づけ)。 3. 対象物質に関して、健康障害等に端を発した問題点が生じた場合、環境予防医学的見地から解析を行う。
健康都市研究会	高野 健人	東京医科歯科大学大学院 健康推進医学分野	中村 柱子 福田 吉治 片山 律	1. 日本健康都市学会、特定非営利活動法人健康都市推進会議と協力し、健康都市研究に関わる国際的な研究交流を推進する。 2. 衛生学研究を、国内外で市民の健康を重視する都市政策の展開において的確に活かすための、社会的なコミュニケーションの方法を検討する。 3. 政策評価や国際保健医療協力の評価に役立つ研究基盤の推進をはかる。
脳・神経学研究会	横山 和仁	三重大学大学院医学系研究科 公衆衛生・産業医学分野	赤林 朗、伊規 須英輝、市原 学、 井上 順雄、上島 通浩、岸 玲子 原谷 隆史、平田 衛、牧 敦、 松岡 雅人、三角 順一、島井 哲志 田代 朋子、八田 武志、荒記 俊一、 岡崎 祐士、葛原 茂樹	健康・疾病問題、快適な社会生活および生産性の高い労働にとってヒトの認知機能および行動が肝要であることはいままでもない、ヒトの認知や行動を支える脳は化学物質、ストレス、教育、文化、生活習慣、遺伝など多くの外部・内部環境因子により影響を受けるため、環境ストレスが脳機能に及ぼす影響を総合的に評価し、健康な脳の維持をはかることはきわめて重要な社会的問題である。とりわけ、高齢社会であるわが国において、加齢による脳機能低下に対する対策の科学的根拠となる知見の集積は重要かつ不可欠である。本研究会では、日本衛生学会内外の研究者が協力し合い、環境と脳の相互関連に関する臨床、基礎および社会医学研究を推進することを目的として活動を行う。
標的毒性メカニズム研究会	遠山 千春	東京大学医学系研究科疾患生命工 学センター 健康環境医工学部門	永沼 章、姫野 誠一郎、佐藤 雅彦、 大迫 誠一郎、中西 剛、雙淵 典之	1. 環境毒性学の研究領域のうち、特に分子標的メカニズムに焦点を当てた研究について今後行うべき研究課題の議論を行うこと 2. 関連学会の毒性学研究者との交流を図り、この研究会をプラットフォームとした共同研究体制を構築すること
分子予防環境医学研究会	松島 綱治	東京大学大学院 医学系研究科 分子予防医学	川本俊弘、小泉昭夫、 酒井敏行、遠山千春	1. 分子レベルの新しい予防・環境医学に結びつく研究の発表・交流の場の提供・・・年1度の年会と書籍の刊行 2. 人的交流 (国際交流を含む) 3. 社会への還元、提案
包括的感染症制御研究会	竹内亨	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 健康科学専攻 人間環境学講座 環境医学分野	秋葉澄伯、小林宣道 玉城英彦、廣田良夫、松口徹也	1. 感染症の発生動向を把握する。従来の疫学的研究に加え、時系列解析等を取り入れることにより、感染症発生の周期性を解明し、流行予測に繋げる研究を目指す。 2. 感染症の発生と様々な環境要因(化学物質、気候変動、社会的要因等)の関連について解析する。実験的研究から疫学的研究まで幅広い手法を用いて研究、考察する。 3. 感染症の原因となる病原体の特性を明らかにする。特に新興・再興感染症の原因となる微生物の遺伝子学的性状、抗原性、病原蛋白、更に他疾患との関連等について、その特徴を解明する。 4. 感染症に対する宿主感受性について、生活習慣、予防接種、分子レベルで研究、考察する。 5. 上記の研究成果を踏まえ、感染症の予防対策の手法を考察、提示する。
包括的トキシコロジー研究会	渡辺 知保	東京大学大学院 医学系研究科 国際保健学専攻 人類生態学領域	姫野 誠一郎、熊谷 嘉人 藤田 博美、益永 茂樹 城山 英明	トキシコロジーは広く生命科学から社会医学にまたがる学際的領域にかかわるとの認識のもとに、以下の活動目標を掲げる。 1. 環境化学物質の影響について、実験的研究およびフィールド調査にもとづく研究を展開する研究者の交流と議論の促進。 2. トキシコロジーの知見を社会医学的に発信するための社会科学、環境工学専門家との情報交換。 3. 環境化学物質の影響評価・管理に関する科学的知見に基づく提言。
ライフスタイル学研究会	吉田勝美	聖マリアンナ医科大学 予防医学教室	武藤 孝司、須賀 万智 杉山 みち子	1. ライフスタイルに関する関連学会との学術知見の交流を図り、新たな研究課題を探索する。 2. ライフスタイルの保健医療福祉にわたる社会的貢献についての場を提供する。

(連携研究会名による50音順)